

週報

WEEKLY REPORT

Rotary International District 2720 Kumamoto South Rotary Club



RIテーマ
ロータリー：
変化をもたらす

第23回例会記録(通算第 2754 回)

平成 30(2018)年 1月 29日

斉唱 国家 君が代

ロータリーソング「それでこそロータリー」

来訪者紹介

倉田榮喜様

(第 2720 地区職業奉仕部門長/熊本北 RC)

www.kumamoto-southrc.org



後藤 博会員「ポールハリスフェロー+1」の認証、おめでとうございます！

国際ロータリー第 2720 地区

熊本南ロータリークラブ

2017-2018 年度 国際ロータリー会長 イアン H.S. ライズリー

例会日：毎週月曜日 12：30～13：30

例会場：〒860-8535 熊本市中央区上通町 2-1 ホテル日航熊本内

創立日：昭和 33 年 9 月 1 日 (承認昭和 33 年 11 月 24 日)

会 長：今村 浩昭 / 幹事 玉田 光識 / クラブ広報委員長 / 大津英敬



[今日]
例 会

- 1 今日の歌
- 2 来訪者紹介
- 3 会長・幹事報告
- 4 外部卓話 笠日出臣様
(熊本県ラグビー協会会長)

[今月/来月]
行 事

- 2/17 地区チーム研修セミナー
@ホルトホール大分
- 2/18 クラブインターアクト委員長連
絡会議@ホルトホール大分
- 2/24 八代 RC 創立 60 周年記念式
典@セレクトロイヤル八代
- 2/26 塚本 侃会員 旭日中綬賞 綬
章お祝いの会@ホテル日航
熊本「ガーデン・バンケット」

会長報告 (今村浩昭君)

皆さま、こんにちは。本日の卓話は、1 月が職業奉仕月間ということで、RI 第 2720 地区 職業奉仕部門長 倉田榮喜様にお越しいただきました。テーマに沿ったお話を楽しみにしております。後ほどよろしく願いいたします。

さて、早いもので創立 60 周年記念式典開催まで半年となりました。私はロータリー歴 10 年近くになりますが、入会当時は非常に緊張したことしか覚えていません。2 年目に出席委員長となり毎回登壇するのですが、毎回緊張いたしました。3 年目に親睦活動委員長となりました。また、国際奉仕委員会の活動も入会当時より参加させていただきましたので、昨年まで実施しておりました「タイ・プロジェクト」や、姉妹クラブ 台北大同扶輪社との交流、国内の活動としましては「オハイエくまもと」の音楽祭支援や高校生水球競技大会支援等、ロータリーに入っていないと中々体験することができなかつたと思います。ぜひ今後 10 年 20 年と継続していただきたい事業です。今回、60 周年記念を迎えるにあたり「イノベー

ション(変わり続ける)」というテーマを掲げました。これは今年度会長方針としても掲げておりますが、先輩方の奉仕の理想を受け継ぎながらも新しいものを取り入れる、熊本南 RC は地域のモデルクラブになっていく使命があるのではと感じているからです。記念式典の準備も少しずつ進んでおります。引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

例会変更のお知らせ

○りんどう RC～定款に基づき休会

[日 程] 2月1日(木)19:00～

○西 RC～定款に基づき休会

[日 程] 2月13日(火)12:30～

幹事報告 (玉田光識君)

ございません

ポールハリスフェロー認証報告

【該当者】原 裕一君 (3回目)・後藤 博君 (2回目)

出席報告 (山口 競君)			
会員数	出席数	出席率	前々回 修正出席率
63名	40名	67.80%	91.67%
出席規定適用免除者 4名		欠席記録免除者 1名	
名誉会員 0名(会員数には含まれません)			

会長エレクト報告 (喜讀宣友君)

皆さま、こんにちは。会長エレクトとしまして、先週1/27 (土) 開催されました「2018-19年度 R 財団 地区補助金管理セミナー」に参加してまいりました。内容としましては、地区補助金とグローバル補助金、平和フェローシップの概要説明でした。グローバル補助金はハードルが高いのですが、地区補助金に関してはだいぶ使いやすくなっていると思いますので、次年度の事業で活用をお考えの委員長には私まで申し出ただければと思います。申請の期間が短く、2月までに覚書 (MOU) の提出、4月までに事業計画書の提出が必要となります。資料を回覧いたしますので、ぜひご検討ください。

野口泰則会員報告

皆さま、こんにちは。前年度まで世界社会奉仕委員会では「タイ・プロジェクト」事業を10年間行っておりましたが、このたび支援しておりましたタイのダムロン高校 日本語学科の先生2名が来日されました。日本の文化や教育現場を直接見たいということが来日の目的でした。河津延雄会員、田川憲生会員、後藤 博会員にご尽力いただき、スタジオ見学、県教育委員会宮尾教育長との面談とサプライズでくまモンにも会えました。タイでもくまモンは有名のようで大変喜んでいらっしゃいました。その後、熊本学園大学附属中学・高校を見学、夕食は松葉にまいりました。山口 競会員のお母様が鼓を披露され、大変感動いたしました。皆さまには直前にお願いしたにもかかわらず快くご協力いただき、ロータリーの友情に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

60周年実行委員会報告 (漆島典和君)

皆さま、こんにちは。先日 60 周年実行委員会より「60 周年記念 キャラバンアンケート」をご案内させていただきましたが、内容に一部誤りがございました。ご案内の注意事項に「キャラバンに参加できない会員から、一律 3,000 円徴収いたします。」とございますが、これは誤りです。参加されない方からの徴収はございません。深くお詫び申し上げ、訂正いたします。

委員会報告

ございません

●スマイルボックス (藤見泰之君)

○倉田榮喜様 (熊本北 RC) II

本日は卓話の時間をいただきました。よろしく申し上げます。

○今村浩昭君・齊藤直信君・玉田光識君・森本康文君

喜讀宣友君・杉光定則君

本日は地区職業奉仕部門長 倉田榮喜様、卓話をありがとうございます。どうぞよろしく願い申し上げます。

○塚本 侃君

本日の卓話者 倉田榮喜様に心から感謝いたします。

○田川憲生君

倉田様の卓話を楽しみにしています。また、ホテル日航熊本が日本旅行社の調査で「おいしい朝食」のホテル部門で日本一となりました。うれしい限りです！！

○堀川貴史君

地区職業奉仕部門 倉田部門長のご来訪を心より歓迎いたします。卓話をよろしく願いいたします。

○永井富士雄君

地区職業奉仕部門長 倉田榮喜様のご来訪を歓迎します。職業奉仕月間卓話、心から感謝します。ロータリーの友1月号に投稿されています「職業奉仕における利己と利他」についても併せて勉強させてください。

○久峨章義君・漆島典和君・坂本研一君・古財良一君

北口 誠君・坂本幸樹君・藤見泰之君・大津英敬君

地区職業奉仕部門長 倉田榮喜様のご来訪を歓迎し、スマイルいたします。

○丸山浩之君

本日の卓話者、熊本北 RC 倉田様のご来訪に心より感謝いたします。倉田先生には地区職業奉仕部門において大変お世話になっております。

○田中裕司君

本日の卓話者 倉田榮喜様は弁護士の大先輩です。本日の卓話を大変楽しみにしていて寝不足です。よろしく願いいたします。

○野口泰則君 II

タイ チェンライ県立ダムロン高校教師二人が熊本を訪問されました。タイ・プロジェクト 10 周年記念です。TKU 河津社長、生番組出演ありがとうございました。田川会長、宮尾教育長のご紹介とくまモンのサプライズ出席ありがとうございました。後藤バスト会長、学園大学附属中・高校の参観ありがとうございました。短時間ながらそれぞれご紹介くださり、心から感謝申し上げます。

○藤見泰之君

本日の言葉は精神科医で随筆家の斎藤茂太氏の「人生に失敗がないと、人生に失敗する」です。私のこれまでの人生には大小さまざまな失敗が数多くありました。失敗を教訓にして学ぶことは実に多く、その経験は宝となっております。また、今このようにしてスマイルできるのも貴重な経験で宝物でございます。

●外部卓話 (杉光定則君)

「職業奉仕を深め実践する」

倉田榮喜様(第 2720 地区職業奉仕部門長/熊本北 RC)



1) ロータリーの友 1 月号

職業奉仕については、ガバナー月信 1 月号は職業奉仕のお話になっており、ロータリーの友 1 月号も職業奉仕についての特集が掲載されています。永田ガバナーのガバナー月信は、国際ロータリーの職業倫理訓について、ロータリーの友 1 月号は、松宮剛元 RI 理事の「職業奉仕について考える」という論考が掲載され、その 15 頁には「職業奉仕における利己と利他」という拙い文章も載っていますが、お目通しをいただければと存じます。昨年のロータリーの友 1 月号は、「職業奉仕はロータリーの根幹か?」という本田博己ビジョン策定特別委員会委員長の論考でした。昨年、職業奉仕部門は、大分での合同フォーラムを含めて 4 回のセミナーを開催しましたが、このうち熊本と大分での各 1 回は、この本田委員長の論考を受け、「職業奉仕はロータリーの金看板か」という内容でセミナーを開催して参加者の皆様にご意見を頂戴したところ、9 割以上の皆様から職業奉仕はロータリーの金看板であるのご回答頂きました。では、どうしてセミナーに参加された 9 割以上の皆様は職業奉仕がロータリーの金看板であると考えておられるのか、その回答の一端は、本年のロータリーの友 1 月号の松宮論考と同時に掲載されている「私が実践する・考える職業奉仕」に示されているのではないかと思います。そのうえで、あらためて「職業奉仕とは何か」、「職業奉仕をどう実践するか」について、職業奉仕の物質的側面と精神的側面を中心にしながら、現時点で考えるところをお話させていただきます。RC の見解ではありませんし、それは違うだろうと思われることもあると思いますが、ご指摘をお願いして考えを整理してまいります。

2) ポール・ハリスの社会奉仕とアーサー F. シェルドンの職業奉仕

ロータリーが発足したのは、シカゴで暗黒の帝王と呼ばれたアル・カボネ (1899~1947) が生きた時代の 1905 年 2 月 23 日の木曜日の夜、ポール・ハリス (1868~1947) は、友人のシルベスター・シール (石炭商) に、職業を一人で代表する会員間の相互扶助を前提にすれば互いの顧客からも利益を享受でき、入会した会員は自然と仕事上の知り合いとなり、互いに公正な取引を行えば信頼感を深められると勧誘して、近くで待っていたガスターバス・ローア (鋳山技師) とハイラム・E・ショーレー (洋服商) の 4 人で最初のクラブの会合を持ったとされます (THE FIRST ROTRIAN)。ハリスの発想で互恵と親睦を掲げて発足した RC は、会員同士の商取引が積極

的に奨励され、この頃のロータリアンは会員同士の商取引によって、互恵と親睦を享受したと思われます。実際、1906 年 1 月に制定された最初のシカゴロータリークラブの定款は、第 1 節に会員の事業上の利益の促進、第 2 節に会員同士の良き親睦と規定されており、いわゆる「バックスクラッチング」(相互に手の届かない背中の痒いところを掻き合う) クラブとも評される時代だったようで、ハリスらの熱心な活動によってその後幾つものクラブが誕生していきます。しかし、信頼のおける会員同士の商取引でも会員数が増加するにつれて会員間のトラブルも発生したでしょうし、ロータリアンだけが利益を享受し続けることに対して社会からの批判もあったと思われるのです (推測ですが)。ハリスが社会奉仕を創立時から考えていたかどうかはわかりませんが、ハリスは、クラブをシカゴから全米へと発展させるためには社会奉仕の理念が必要と考えて、社会奉仕理念を導入するように努めるようになりました。ハリスは、1907 年 2 月にシカゴクラブの三代会長に就任し、会長就任後、当時はデパートと酒場にしかなかった公衆便所をシカゴ市に寄附しました。その後、1908 年にシカゴ RC に入会したビジネススクールの校長であったアーサー F. シェルドン (1868~1935) は、1911 年 8 月の第 2 回全米ロータリークラブ連合会で、「私の宣言」と題する職業奉仕理念を発表し (代読)、この奉仕理念はやがて RC の奉仕理念とされるようになりました。シェルドンの職業奉仕理念は、「継続的な事業の発展を得るためには、自分の儲けを優先するのではなく、自分の職業を通じて社会に貢献するという意図を持って事業を営む」とする企業経営理念を普及するものと理解されており (田中毅 PDG 論文等参照)、シェルドンのいうサービスとは、何代も持続して繁栄する企業に共通にみられる経営方法を指すものでした。いわば、ピーター・ドラッカー (1909~2005) の顧客満足の理念とも重ね合わせることができるものと考えられます。シェルドンが唱えたサービスは、「最もよくサービスする者は最も儲かる」というものですから、当初のクラブで積極的に推奨された会員間の直接商取引とは決別することになっても、なお、ロータリアンが事業で儲けるにはどうしたら良いかという物質的側面を主眼とするものであったと思われるのです。

3) ポール・ハリスの職業倫理向上運動

ポール・ハリスは、自らが会長になった 1907 年以降、RC 運動のなかに社会奉仕の理念を導入するように努め、公衆便所をシカゴ市に寄附したりしたことは先にお話したところですが、1911 年 8 月の第 2 回全米ロータリークラブでシェルドンが発表した職業奉仕理念についても、公正な取引という商業道德の側面から職業人としての倫理の向上が含まれるとして職業倫理の向上を主張したと理解されます。大森前職業奉仕部門長は、ポール・ハリス著の「THIS ROTARIAN AGE」、これを訳した「ロータリーの理想と友愛」(米山梅吉訳) これを読本的に解説した富田英壽編読本「ロータリーの理想と友愛」から、ハリスは職業倫理の向上を主張したと理解できるとして、職

業奉仕の二つの側面として物質的満足と精神的満足としてセミナーで説明されていたところです。すなわち、職業奉仕にはシェルドンが主眼とした企業経営の成功秘訣という物質的側面と、ハリスが強調した職業を通じての職業倫理の向上という精神的側面の二つの側面があると考えられるのです。以上から、職業奉仕には、RCで企業繁栄の秘訣と倫理を学ぶことによって、①自己の職業や企業の繁栄を通して社会に貢献する事（シェルドンが主眼とする物質的側面）と、②自己の職業や企業だけに止まらず自己が所属する業界の職業倫理の向上に務めることで社会に奉仕すること（ハリスが主眼とする精神的側面）の二つの側面があり、この二つで職業や事業を通して社会に貢献し奉仕するということになると考えられるのです。この職業奉仕の二つの側面から「職業奉仕の実践」として、①自己の職業や会社がより多く社会に有用なものとするように務めること（職業による貢献）と、②自己の職業や会社のみならず自分が所属する業界の倫理向上に努めることが導かれ（職業による奉仕）、現時点で、この二つがロータリアンの職業奉仕の実践であると考えるところです。そしてさらに、RCの職業奉仕が利己を超越しての利他を図るものとなり、実際にもロータリアンの職業や企業がこのように成長して持続的に繁栄していき、属する業界の倫理が向上するならば職業奉仕はまさしくRCの金看板といえるのです。ところで、先ほど紹介したセミナーに参加された回答の中には、社会奉仕がロータリーの金看板であるのご見解がありました。RCの第2の日常行動指針が「最もよく奉仕するものは、最も多く報われる」となっていること、シェルドン当初の「最も儲かる」から「最も多く報われる」とされたのはRCの超私の奉仕の理念にもとづいているからだと思いますが、このことはロータリアンが職業奉仕で社会貢献を行うことは当然の前提として、その果実の一部を使つての社会奉仕が必然的に求められており、ロータリーが持続的に発展するためには社会奉仕の実践は不可欠といえます。ハリスが計画したように、RCは社会奉仕の団体であつてこそ社会に有用であり今後の発展も可能なのです。

4) 互惠・受益者論の再考

ところで、わがクラブが典型的な具体例ですが、大局的に考察すれば日本のロータリーは会員数が減少する傾向にあることは否めません。では、会員数が減少する原因はどこにあるのか。この点について、ロータリー創設時における物質的互惠を奨励した時代が特別としても、ロータリアンをいわゆる「受益者」の概念から除外したことが大きな原因とする見解があります。では、ロータリアンはRCにおいて受益者であつてはならないのか。ご承知の通り、ロータリーには当初「互惠」「親睦」「奉仕」という3つの柱がありましたが、最近では互惠の声は聞こえなくなりました。今後もロータリアンが受益者であるとの議論が大きくなるとは思いますが、ロータリアンがクラブとRCで受益者であることを否定したくないと思います。ロータリーで叫ばれる「友愛」は、互惠議論が

聞こえなくなった後も友愛の精神として説かれ続けているところであり、本日は友愛の精神と共に互惠や受益者論ということ意識して、職業奉仕についても受益者であることを実感できる方法はないのか考えてみます。まずはロータリーの例会において、前述した職業奉仕の二つの側面、一つは企業経営成功の秘訣を学べる場を持つこと、一つは職業倫理を学べる場を意図して設けてみたらどうかと思うところです。クラブの例会やセミナーで、企業経営成功の秘訣や企業倫理をロータリアン相互がオープンに学び合うことで受益者であることも実感できるようになるのではないかと思います。そして、職業を持たないクラブの職業奉仕の実践は、クラブの職業奉仕活動としてとらえることができ、クラブとして企業経営成功の秘訣や企業倫理の向上を学べる場や機会を積極的に定例的に設定することが重要と思います。さらには、例会でのテーマを設定した職業議論や企業経営に成功している職場訪問だけではなく、親睦を通じて、先輩ロータリアン一人一人の姿勢からも成功の秘訣や精神的倫理を学べると場所と人材とを有しているのがロータリーだと思ふのです。職業はロータリアン一人一人の属人的なものであるとしても、クラブにおける職業奉仕活動が企業経営成功の秘訣と企業倫理の相互学習を推進するものとなっていけば、受益者論が意味あるものになりロータリアンになって良かったとの実感が増すのではないかと考えるところです。

5) 親睦・互惠・奉仕と友愛精神

今年のロータリーの友1月号に掲載される松宮剛元RI理事の「職業奉仕について考える」の11頁に主張される「会員相互の交流」に伴う「切磋琢磨と自己改善のエネルギーの横溢」や「ロータリー特有の親睦による自己改善の成果」が、「自己の職業に対する姿勢を変化させるに違ひなく」、「基本原則を活かしたクラブでの親睦」が職業奉仕をロータリーの金看板たらしめる強い力となるとの主張で共鳴するところです。その成果として、ロータリアン各自の職業や企業が持続的に繁栄したものとなり、成果の一部が社会奉仕等に使われるようになるよう願うところです。今年度と次年度の職業奉仕部門は、親睦・互惠・奉仕の3つと友愛精神を念頭におきながら、部門としても職業奉仕活動をさらに意味あるものにできるように務めてまいります。最後になりますが、職業奉仕部門として皆様へのお願いです。ロータリアンである皆様の職業や会社が「4つのテスト」の実践を通じて検証されて、より多く社会に貢献する職業や企業へと発展され、その体験例を職業奉仕部門にご紹介いただけるようお願いできればと存じます。

【例会予定】

2/12 祝日のため休会

2/19 松木喜一様（八代商工会議所 会頭）

2/26 戦略委員会 クラブフォーラム